

2023年6月27日

The Partnership to Fight Infectious Disease
(PFID: 「感染症と戦うパートナーシップ」)

「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会報告書」に関する PFID の見解

厚生労働省が6月12日に公表した「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会報告書」において、革新的医薬品の上市・安定供給などに関する日本の課題対策が提言されました。

PFID は次のパンデミックに備えて新型コロナウイルス感染症からの教訓を、ワクチン開発をはじめとする創薬イノベーションの評価に生かし、国際的に連携することの重要性を訴求してきました。またサイレントパンデミックとよばれる薬剤耐性の課題に対しても国際的な取り組みの必要性を謳っています。

本報告書は、「創薬力の強化、ドラッグ・ラグ／ドラッグ・ロスの解消」の項で、政策の方向性として革新的医薬品の創出への促進の必要性に触れ、研究開発への経営資源の集中化を図るべきであり、ビジネスモデルへの転換を促進するために薬価制度の見直しなどの必要性に言及しています。また薬剤耐性に対しても抗菌薬確保支援事業の実施と、適切なプル型インセンティブの創出の必要性が認識されています。

PFID は、政府のこのような戦略的な動きにより革新的創薬への道が拓かれつつあることを評価します。一方で、海外へのプロアクティブな情報発信の必要性に関する言及はあるものの、国際連携については今後より深めていくための取り組みが必要だと考えています。

本報告書を機に、今後、さらに国際社会に貢献できる対策立案のための議論が進むことを希望します。

PFID は官民間わず各分野の専門家が国際的に意見交換、交流することを支援しています。

【PFID について】

「感染症と戦うパートナーシップ（Partnership to Fight Infectious Disease: PFID）は、感染症による脅威への意識向上に努める患者、医療従事者、地域組織、学術研究者、企業や組織、感染症専門家で構成される米国の非営利団体です。

<ミッション>

「慢性疾患と戦うパートナーシップ（Partnership to Fight Chronic Disease : PFCD）」のイニシアティブとして、PFID はパンデミックへの備えを強化する必要性、拡大する薬剤耐性（AMR）の脅威、新たな抗菌療法の必要性に対処する解決策の調査と促進、新型コロナウイルス感染症のワクチンに関する情報に基づく選択を支援し、信頼性の向上に取り組んでいます。

<団体情報>

設立：2020 年 6 月

本拠地：米国ワシントン D.C.

会長：Kenneth E. Thorpe（ケネス・ソープ）博士/慢性疾患対策パートナーシップ会長/
エモリー大学ロリンス公衆衛生大学院 Robert W. Woodruff 教授、保健政策・管理学科長

【報道関係からのお問い合わせ先】

PFID 日本事務局 Japan-PR@fightinfectiousdisease.org

メディア担当：名倉、多賀

###